



金子みすゞの世界

in とよかわ

令和5年7月29日(土) 14:00開演 (13:30開場)
会場 豊川市文化会館 大ホール

《プログラム》

- オープニング
- 講談
神田 京子(講談師)
- 講演
矢崎 節夫
金子みすゞ記念館館長
(童謡詩人)



<注意事項など>

- ・参加を希望される方は、用紙の下部の必要事項を記入し、6月16日(金)までに担任の先生へ提出してください。(入場には整理券が必要です)
- ・希望者多数の場合は代理抽選を行います。
- ・天候等により急遽中止となる場合があります。
- ・会場への交通手段は各自でご対応ください。駐車場の数が限られています。公共交通機関のご利用や、お車でお越しの際は、乗り合せ等ご協力をお願いします。

【本件に関するお問い合わせは豊川市教育委員会学校教育課 0533-88-8033 まで】

き り と り

親子講演会に参加を希望します。

児童生徒氏名()

保護者氏名()

教職員氏名()

入場整理券希望枚数

枚

金子 みすゞ



<写真提供>
金子みすゞ著作保存会

本名金子テル。1903年（明治36）、山口県大津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれる。大津高等女学校卒業、大正末期から昭和の初期にかけ、すぐれた作品を発表し、西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」とまで称賛されながら、1930年（昭和5）、26歳の若さで世を去った。没後その作品は埋もれ、「幻の童謡詩人」と語りつがれるばかりとなったが、童謡詩人・矢崎節夫の長年の努力により512編の詩を収めた遺稿集が見つかり、没後50余年を経て『金子みすゞ全集』（JULA出版局）として出版された。そのやさしさに貫かれた詩句の数々は、いま確実に人々の心に広がっている。生誕100年にあたる2003年4月には、少女時代を過ごした金子文英堂跡地に「金子みすゞ記念館」が完成。全国から20年間で180万人を超える来館者が訪れ、感動を新たにしている。現在までに14か国語に翻訳され、その魅力は世界に広がりつつある。2023年、生誕120年。

神田 京子



講談師。1999年二代目神田山陽に入門。山陽他界後は神田陽子に師事。2014年日本講談協会・公益社団法人落語芸術協会にて真打昇進。寄席や講談会、独演会の出演の他、「講談+α」のコラボ公演も各地で開催。2021年度（第76回）文化庁芸術祭賞優秀賞（「金子みすゞ伝～明るいほうへ～」他）、2021年度岐阜県芸術文化奨励賞受賞。夫は詩人桑原滝弥。一児の母。2020年より山口へ移住。山口東京の二拠点の視点を持ちながら新たな講談の可能性を模索している。

矢崎 節夫



昭和22（1947）年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。大学在学中より童謡・童話の世界を志し、童謡詩人佐藤義美、まど・みちおに師事。昭和57（1982）年、童話集『ほしとそらのしたで』（フレーベル館）で、第12回赤い鳥文学賞を受賞する。童謡・童話の世界で活躍し、著書多数。

自身の創作活動の傍ら、学生時代に出会った1編の童謡「大漁」に衝撃を受け、作者である金子みすゞの作品を探し続ける。16年ののち、実弟が持っていた遺稿にたどりつき、『金子みすゞ全集』（JULA出版局）として出版、以後その作品集の編集・出版に携わっている。特に、長年の調査の集積として執筆した『童謡詩人金子みすゞの生涯』（JULA出版局）においては、平成5（1993）年、日本児童文学学会賞を受賞している。

全国各地で講演を行い、金子みすゞの甦りと広がり伝える。